

ノーリフティングケアが現場にもたらした効果

～動けば変わる、現場の意識～



社会福祉法人

内野会

SINCE 1981

特別養護老人ホーム

本陣園

令和3年5月13日

機能訓練指導員 川端俊祐

ノーリフティングケア推進による本陣園の変化

①「もう前のケアには戻れません」

②施設全体の意識変化 & 活性化

③人材を守る労働環境

④風通しの良い施設へ

～もの言わぬ職場から、もの言える職場へ 全員参加～



①「もう前のケアには戻れません」

◎本陣園のケアの変化

Before

- ・職員が抱え上げる
もしくは
- ・施設側が選定した福祉用具を、説明書をもとに活用

- ・力任せの介助方法をやめられない職員多数。
- ・「手間がかかるから」と福祉用具の使用は限定的であった。
- ・腰痛のある職員も多かった。



After

適切な福祉用具の使い方・抱えない介護方法を学習

→それらを実践し、効果を体感してきた

職員からのうれしい声

- ・腰痛や体の痛みが楽になった(40代女性ほか)
- ・定年過ぎても働ける(50代女性)
- ・前のケアには戻れません(50代女性)

※特に女性職員から大好評！



研修中は新しい介護方法
へ果敢にチャレンジ



結果、前のケアには戻れ
なくなった



積極的に新しいケアを取り
入れる風土づくりにもつな
がった

入居者様の反応も...

リフトなどの福祉用具使用に難色を示していた入居者様も、職員が技術を習得すると以前より安楽な様子で介助を受けられるように。



抱え上げて移乗するときに膝を無理に伸ばさなければならず、痛みを訴えられていた。



スライディングボードの活用で負担がなくなった！

職員の腰痛予防対策として始めた朝のラジオ体操では、入居者様も一緒に体を動かしていただく。



良い運動の機会に♪



②施設全体の意識変化 & 活性化

Before

- ・腰痛予防への意識は現在と比べ低く、福祉用具があっても使用しないこともしばしば...
- ・6つのユニット間での相互交流は少なく、職員が別のユニットへ出向くことも少なかった。



After

◎ユニット間で福祉用具の使い方を伝達し合う様子がみられるようになる

⇒今まではあまりなかったユニット間の交流が生まれ、施設全体に活気が出てきた！



新しい道具や知識をケア
に取り入れる

+

今ある道具を施設全体で
有効活用

↓

施設全体のスキルアップ
と活性化へ

After

“使い回す”マネジメントの誕生

- ・数が限られた福祉用具を6つのユニットでうまく使い回すようになる。
- 使い回してでも福祉用具を使い、各々の腰痛リスクを減らそうとする動きが芽生えるように！



スタンディングリフト使用状況調査 (4)
令和3年2月24日現在

ユニット	氏名	使用時間(排泄・移乗等)				入浴		備考
1	西2	10:30	14:30	:	:	(甲)14:00	(甲)14:00	
2	西	:	14:30	:	:	(甲)16:00	(甲)14:00	7/24現在 使用中
3	西1	:	:	:	:	() :	() :	使用中
4	西2	7:00	11:00	15:00	18:20	(乙)10:30	() :	
5	北1	6:00	7:00	8:20	9:20	(乙)10:00	(乙)10:00	不規則
6		11:00	15:40	17:10	:	() :	() :	
7		:	:	:	:	() :	() :	
8		:	:	:	:	() :	() :	
9		:	:	:	:	() :	() :	
10		:	:	:	:	() :	() :	
11		:	:	:	:	() :	() :	
12		:	:	:	:	() :	() :	
13		:	:	:	:	() :	() :	
14		:	:	:	:	() :	() :	
15		:	:	:	:	() :	() :	

19日/日

9日

21日/日

自発的にタイムスケジュールを組んで使い回す様子も。
「絶対に抱えずに介護する！」
という意思が感じられる...

◎ユニットリーダーがスタンディングリフトの購入依頼書を書いてくることも...

Before

- ・福祉用具は施設側が選定して導入。
物品購入依頼書の独自様式はあるが簡素なものであった。

After

- ・必要としている対象者その状況、使用することで双方にどういった効果が望めるかなどが記載されていた。

⇒ノーリフティングケアへの熱意が芽生えてきた？

ノーリフティングケアの意義の定着

再読出

スタンディングリフト購入依頼書

南町二区 [REDACTED]
R2.11.9

現在、[REDACTED]様に関しては体重が40kg前後と軽いため、入浴・トイレ誘導時ともに抱えてのオムツ交換も可能ではありますが、[REDACTED]様に関しては体重が80kg以上あり入退院も繰り返されています。その度に下肢筋力の低下から立位保持が困難となっている。入浴・トイレ誘導とともに職員の大きな負担になっています。

10月に西町が手動のスタンディングリフトを購入されたとのことで、月・火曜日の入浴時に[REDACTED]の移乗に使用するため、西町より借りてきています。

入浴時の使用方法として入浴前に車椅子から入浴用リフトチェアへの移乗。入浴後にスタンディングリフト上でオムツ装着し、車椅子への移乗に活用しています。スタンディングリフト使用前は脱衣所にベッドを設置し、オムツ施行をしていましたが、高さの変更ができないベッドだったため、オムツ施行の度に職員の腰にかなりの負担がかかっていました。[REDACTED]はトイレ誘導時一旦立位をとって頂く動作にも右手で手摺りを持たれるが立とうとする意思なくば全介助で職員一人が抱え一人がズボン・オムツを外し臀部を支えながら便座に座って頂いている状態。ベッド上でのオムツ交換とも検討しましたが毎回の確執床も[REDACTED]業・職員の負担となる。[REDACTED]様に関してはスタンディングリフト使用中、とてもラックスされており介助する側もやりやすい。

◎購入のメリットとして。

- ・入居者様に無理に立位をとって頂く必要がなくなり、安楽に移乗が出来る。
- ・移乗時の職員の腰への負担が軽減できる。
- ・西町からリフトを貸借する際の職員の手前と時間のロスをなくせる。
- ・南町二区だけでなく、南町一区でも[REDACTED]様が獨特入浴時・トイレ誘導時に抱えての介助行っている。南町二区でも[REDACTED]様以外にも活用方法が検討出来る。
- ・手動のスタンディングリフトだけでは、使用方法のパリエーションが限られる可能性がある。

スタンディングリフト使用始めてからは、南町二区の職員全員が腰への負担が軽くなったと話しています。

③人材を守る労働環境（腰痛調査アンケート）

Before

アンケートを実施しても役立てることはなく、やりっぱなし。

何のためのアンケート？ 目的のないアンケートだった。

After

- 腰痛調査やアンケートを通じて施設の現状を知るとともに、腰痛リスクの高い職員には個人面談と個別のリスク低減策を実施できる。

→管理者側は一般職員一人一人をよく知るきっかけに

一般職員は抱えている悩み（身体的、精神的、家庭etc.）を相談する機会に



前回の面談で、管理者は持病を抱えたある職員が負担を感じている業務内容について初めて知った。それに対策をうったことで職員には大変喜ばれた。

④風通しの良い施設へ ～もの言わぬ職場から、もの言える職場へ 全員参加～

Before

一般職員から上層部へ意見をあげる手段がなかった。

After

意見をあげる手段ができ、前向きにあげてくれるようになる。



ホワイトボードを職員通用口前に配置し、付箋へ身のまわりに潜むリスクを書きこんで貼り付けてもらっている。

挙げた意見は皆に開示し、施設もそれに対応。
⇒皆が率先して意見をあげるように！

みんなの意見で良くなる業務

1人でリハ室の階段を
使われて危ない...
↓
階段を皆の目が届き
やすい場所へ！



重いスポーツ飲料を
抱えるのがつらい...
↓
思い切って粉末タイプ
を使ってみよう！



体重計の出し
入れ、抱えない
といけない...
↓
収納場所を
スッキリ！

